

かたつむり

鈴木三重吉

青空文庫

トウロツトのお母ちやまは、朝、いろんな人たちと一しよに、馬車でそとへお出かけになりました。ド・ヴレーさんといふよそのをぢさまが、馬のたづなをとり、もう一人のをぢさまがラツパをならして、みんなでたのしさうに出ていきました。トウロツトは、ちひさくて、足手まとひになるので別荘にのこされました。

トウロツトは、女中のジャンヌと二人であそぶつもりであつたのですのに、お母ちやまはトウロツトがたいくつするだらうとおもつて、先生のミスに、来てやつて下さいとおたのみになつたもの

です。トウロツトは、あゝあと、がっかりしました。お母ちやまは、トウロツトにさうだんもなさらないで、いやな人をおよびになるのですからたまりません。

ミスはお庭のおくのベンチにこしかけて、偉大なお鼻の上にもがねをのつけて、顔中のすぢ一つさへうごかさないうで、自動器械のやうに、さく／＼とご本をめくつてゐます。トウロツトは、ミスにしかられないやうに、何かわるくないことをして、時間をつぶさなければなりません。それでさん／＼かんがへて、けふはお庭の中をくはしく見て歩いてみようとおもひつきました。

今は、庭もかなりあれてゐて、砂利だの、やせた芝のごみだの、木のきれはしなぞが、ちらかつたりしてゐますが、でもまん中ど

ころにあるバラの木だけは、人の目を引きつけないではおきません。とてもすばらしい、いゝバラの木で、とき／＼花がさきます。けふも、ちようど一つ、大きくさきひらいてゐます。トウロツトは、その花をうつとりと、いろんな方がくからながめました。それは何ともいへない、きれいな花です。

と、そのうちに、きふにトウロツトの目は、大きくまるくなつて、じつと一ところを見すゑました。ほう、こはいものがある。バラの葉の上にかたつむりがのそく／＼うごいてゐます。おゝ、いやなやつ。うしろにきらく／＼したあとをひいて、頭を右にまはしたり左にまはしたり、つのを出したり、ひつこめたりしてゐます。ちつとも、ゑんりよなんかしてゐやしませぬ。トウロツトは、し

ばらく、じつと見つめたのちに、するどい声をたて、ミスをやびました。

「ミス、来てごらんさい。」

ミスは大きな鼻を上げ、ご本をかゝへて、四またぎでトウロツトのそばへ来ました。

「何です。」

トウロツトは、おゝこはいくといふやうに、ゆびさしました。
「かたつむりぢやありませんか。」

それはわかつてゐます。トウロツトが見たつてかたつむりです。
「この軟体動物は植物に害を加へます。殺してもかまひません。」
トウロツトは、けつこうなおゆるしをいたゞきました。しかし、

こいつをつかまへるのはたまりません。とてもいやなことです。

「とつて下さいな、ミス。」

ミスは、たちまち、けはしい目つきをしました。

「なぜわたしがそれをつかまへるのです。なぜあなたがつかまへないのです。それがバラを害する以上は、あなたがつかまへるかまへないは、あなたの幸福にえいきようするのですよ。あなたの幸福を保護するのは、あなたでなければなりません。」

トウロツトはためいきをつきました。ミスが一ど言ひ出したら、いくら口ごたへをしたつてだめです。で、トウロツトは手をのべかけて、ひゝい、といふやうにその手をひつこめました。しかししまひには、とうくかたつむりのからの上にゆびをつけました。

かたつむりは、びつくりして、すつかり家の中へひつこんでしまひました。もう何も出ては来ません。トウロツトは、ずつと息がらくになりました。しかし、けつきよく同じことでした。いくら何にも出ないからつて、じたい、こんな動物は、とてもすきではないからです。

トウロツトは、つかみ上げはしたものの、さてどうしたらいかと、もじく／＼しました。あゝ、いゝことがある。トウロツトは、それをそつと、へいごしにおとなりのお庭の中へなげこまうともつて、手をうしろへふり上げました。すると、ミスが、いきなりくびすぢをおさへつけて、こはい声で言ひました。

「トウロツト、ひとの不幸のなかにじぶんの幸をもとめることは

禁じられてゐます。この動物をおとなりへなげれば、おとなりの植物を食べます。そんなことをするのは不正です。」

「ぢやア、どうすればいいの？」

「おつぶしなさい、足で。」

トウロツトは、こまつて、手の中のかたつむりを見つめました。足でつぶす……ふう、このからが、ぐしやりとなるのをかんがへるだけでも、こいつの肉が、くつの底でぐちやくくなるのをかんがへるだけでも、むねがわるくなつて来ます。あゝ、井戸の中へなげこまうかしら。さうだ。その方がよつぽどましだ。

二

トウロツトはさうしようときめかけました。しかし、それも何だか気がひけます。だつて、あはれなこのかたつむりは、何もわるいことをしたわけではありません。こいつは植物の葉なぞの上をうごいて、日光をあびて、ぐるりと一まはりして来て、お食事をするのがたのしみなのです。きつとさうです、でも、バラを食べる。バラに害をする。やつぱり、ばつしてやらなければいけない。

しかし、だれだつてものを食べます。このかたつむりだつて、バラの上をはひまはつてゐるのは悪気があつてではありません。

おなかぐすいてゐるからです。からだをやしなはなければならぬいからです。それをばつしるといふのはひどいやうです。

でも人は、を牛や羊や小羊を殺します。あんなに、かなしい声でなく、かはいさうな小羊をも殺します。たのしいうたをうたふ森の鳥をでもころします。そんなものたちこそ、かたつむりなんかより、よつぽどおもしろい動物で、そして、わるぎなんてものはちつとももつてはゐません。それでも人はそれをみんな殺すのです。だから、このかたつむりだつて……

トウロツトはなげつけて足でふみつぶさうとして、手をふりあげました。でも、やつぱり手をおろしました。手の中にはからをにぎつてゐるのです。

さうだ、人はよくどんな動物でも殺すけれど、それは食べるために殺すのだ。人間のためにいるから殺すのだ。せんにお父さまは、よそのいたづらつ子が、ぱちんこで小鳥をうちおとしたときに、その子の耳をおひつぱりになつたことがある。お父さまは、たいそうおおこりになつた。でも小鳥はくだものをつつつきます。羊だつて牛だつて草をたべたり、きれいな花をむしつて食べたりします。いつかもめ牛が、一どにマーガレットの花を五十ばかりもひっこぬいたことがあります。しかし、そのくらゐのことですの牛を殺していゝかしら。

トウロツトは、あゝでもない、かうでもない、こねくりかへしてかんがへたあげく、どうにも、とりとめがつかなくなつてき

ました。すこし泣きたくもなりました。そして、つまるところ、このかたつむりをふみつぶすといふことは、大きな罪をかすやうな気がしてなりません。しかし、こいつを、このまゝにしておけば、バラの木がいためられるのです。あゝあ、どうしたらいいだらうと、トウロツトは、ひどくこまつて頭がぼうとなりかけました。

でも、かういふことだけは、ぼんやりなりにも言へるやうです。羊を殺すのはわるい。しかし食べるためになら殺してもわるくはない。かたつむりをころすのはわるい。でも食べ……

トウロツトは、びつくりして、じつと手の中のかたつむりをながめました。おゝいやだ。そんなことは、とても出来つこはない。

おゝ、いやだく。

ミスはとほくから、あざけるやうなようすをして見てゐます。トウロツトがどう結末をつけるかと、ひざの上にごほんをのせて、そり身になつて見てゐるのです。

三

そのミスが、ふいに、針にでもつきさゝれたやうに、とびり、かなきりごゑをはり上げて、ご本をすつとばしてとんで来ました。トウロツトは、かたつむりを手でぐいと、のどのおくにおしこ

んだのです。そして、目をつぶつてのみこんでしまったのです。

「まあ、とんでもない。……ばかなことを。……どうしてそんなむちやをするのです。ほんとにあきれた。なんておそろしいことをするのです。」

ミスはひつくりかへるほどびつくりして、お部屋へかへつても、フランス語とイギリス語を、ごつちやに、くちびるの上でぶつけ合せました。トウロツトは平気で、にはか雨が来たのを、けろんとして見てゐました。

しかし、じつをいふと、胃ぶくろの中がどうなるか、それがすこし気がゝりでした。いやにグウグウと、へんな音がします。きつとかたつむりが、のそく歩いてゐるのにちがひありません。

かうおもふとすこし胸がむかつて来ました。

でも、まあそれだけのことです。かたつむりはどうせ消化されてしまふでせう。

そこでトウロツトは、雨があがると、またお庭へ出ました。そして、まへよりももつとふかい愛情をもつてバラを見入りました。あはれなかつむりを、むごたらしくふみつぶしもせず、そしてこのうつくしいバラをも、すつかり保護してやつたことが、トウロツトにはとてもく〜とくいでした。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系 第一〇巻」ほるぷ出版

1978（昭和53）年11月30日初刷発行

底本の親本：「鈴木三重吉童話全集 第五巻」文泉堂書店

1975（昭和50）年9月

初出：「赤い鳥」赤い鳥社

1929（昭和4）年3月

入力：tatsuki

校正：林 幸雄

2007年2月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

かたつむり

鈴木三重吉

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>